

地域コミュニティからの自治創造 ～交響する創造都市に向けて～

2009年1月7日 練馬区基本構想審議会第2回学習会
首都大学東京 大学院 大杉 覚

地域コミュニティを核として練馬区版 交響する創造都市を考える

〈contents〉

○審議会の議論で確認されたこと

○地域コミュニティと2つの「こうきょう」
～公共と交響

○熟慮を要する地域コミュニティのデザイン

審議会の議論で確認されたこと①

○創造都市を志向する

- ・環境(みどり・農業)・芸術文化(アニメなど)・教育・産業を戦略的にミックスすることを通じて、付加価値を生み出す活力あるまちづくりが必要なこと
(練馬区の“強み”を活かす)
- ・近年の有力な都市論であるチャールズ・ランドリーら**Creative City**論とも共有する発想

審議会の議論で確認されたこと②

○地域コミュニティを重視する

- ・地域コミュニティを重視したアプローチを取るべきこと（練馬区の“弱み”を克服する）
- ・ただし、地域コミュニティに込められた想いはさまざま（くらし(日常生活), 身近さ(地域密着), 自己実現の場, 支えあい(公助・共助), ふるさと(郷土愛, 心のよりどころ), etc)

地域コミュニティと 2つの「こうきょう」～公共と交響①

○「新しい公共」を創る

- ・区民・地域団体・NPO・事業者など各主体がそれぞれの地域資源（知恵・時間・情報・労働・資金など）を持ち寄り、より豊かな社会形成を目指す場を創る（安全安心，子どもの見守り，まちづくり，etc）
- ・「練馬区という都市自治体全域の公共空間」と「地域コミュニティという部分的な公共空間」とを分けた上で関係付ける

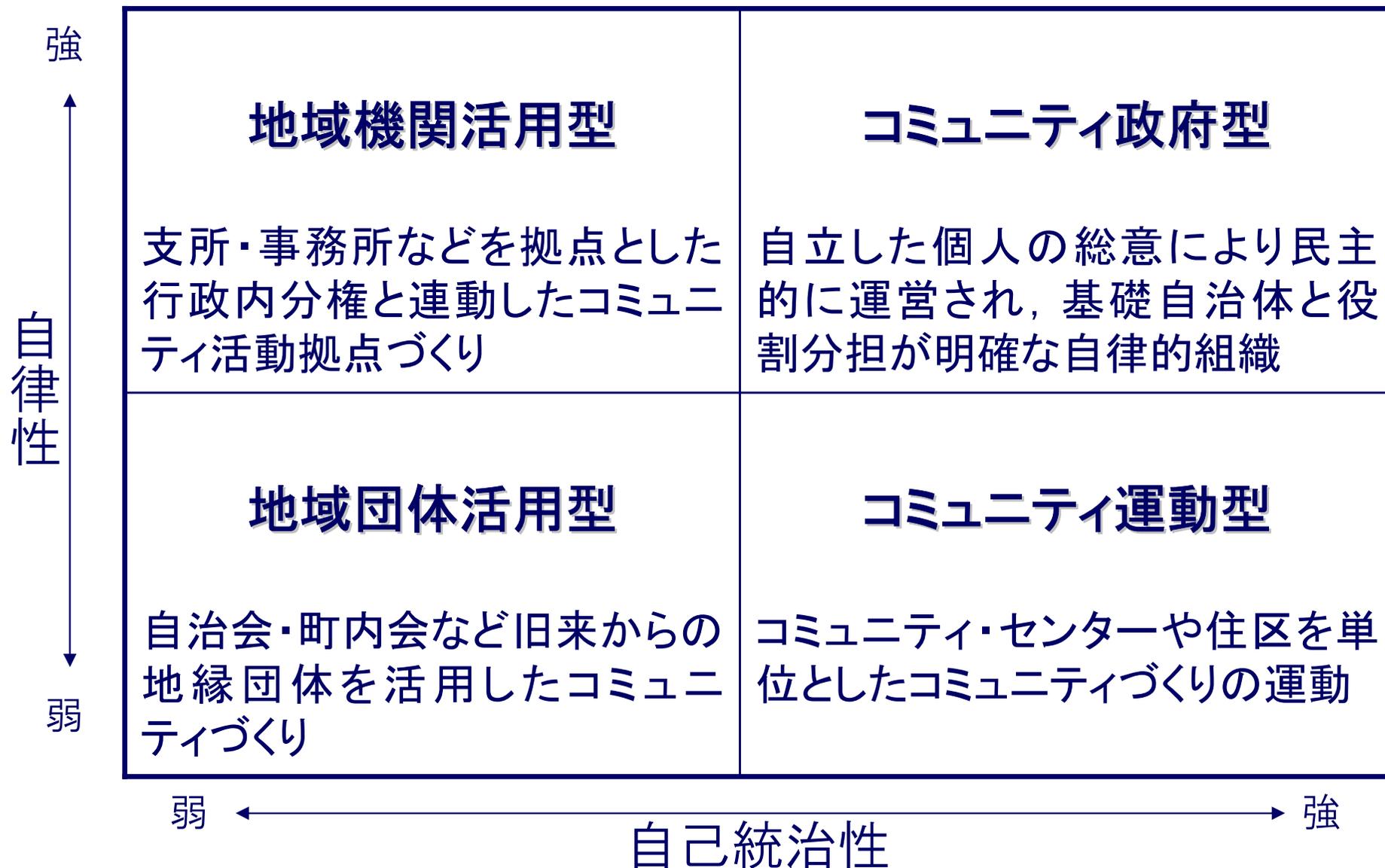
地域コミュニティと 2つの「こうきょう」～公共と交響②

- “競争” から “響創” へ
 - ・一人ひとりを個人として尊重し、それぞれの価値観や立場の相違・多様性を認めあい、情報の共有やコミュニケーションの促進が図られる関係づくりが創造都市のインフラとなる
 - ・競争過剰社会から響創多様社会へと転換するうえで基盤となる地域コミュニティを構築する

熟慮を要する 地域コミュニティのデザイン

- 基本構想で示すべきボトムライン(私案)
 - ・地域コミュニティは，“創造都市”実現のために不可欠なインフラであること
 - ・ポスト基本構想で，地域コミュニティに関する検討の場を設けて，本腰を据えた議論を行うことの確約(例えば，2～3年の期限を設けた地域コミュニティ検討会議(仮称)の設置)

(参考) 都市内分権の観点から見た地域コミュニティづくりの考え方



(出典) 拙稿「住民と自治体－自治体経営への住民参加」比較地方自治研究センター，2007年，17頁(HP版：<http://www3.grips.ac.jp/~coslog/documentsandstatistics/02/index.html>)を一部修正。

今後の検討に向けて

～地域コミュニティをどう位置づけるか～

○10年後は予測不可能・・・

不確実な時代状況だからこそ、区民が「勇気と希望」「信頼と納得」「響きあい」「支えあい」を実感できる地に足の着いた「小さな自治」の場として、地域コミュニティを大切にし、練馬区総体の地域力向上の梃子とすべき。